

なぜ「空バス」は走るの？

バス車内を見るとほとんど乗客がなく、「空気を運んでいるバスは走る必要があるのか」とか「空バスなら廃止してもいいのではないか」と考えたことはありますか？

バスの利用者が多い時間帯は、朝早くまた夕方以降の通勤・通学の時間帯です。この時間のバスを確認される方は少ないかもしれません。多くの「空バス」は昼間の時間です。この時間は地域にいる方も限られ、バスの利用者も少ないことからガラガラのバスになります。(バスが走っているのを見るのもこの時間帯が多いのではないのでしょうか。)

また、バスは目的地に到着することで運行が終了するのではなく、次の利用者のために、再度出発地点に戻らなければなりません。(回送運行しても運行時間はさほどかわらず、経費も通常運行と同様にかかります。)

例えば、朝、名栗車庫から通勤・通学者のために飯能駅まで運行するとします。次の利用者のためには、またバスを名栗車庫に戻す必要があります。(バスを戻さないと車両は何台も必要となります。)

朝、名栗方面に行く方は、飯能駅に向かう人よりも少ないので、バスもガラガラになります。(夕方以降は逆になります。…最終バスも早いのはこのためです)

利用者がいないからと名栗車庫への運行をやめてしまうと、次に名栗車庫から飯能駅にバスで出かけた人は出かけられなくなります。

昼間、利用したい人も「空バス」を理由に運行をやめられると外出できなくなります。

「空バス」はバスの運行上、必要であり、また、どうしても発生してしまうものです。

昼間、外出には可能な限りバスを利用していただき、ガラガラの状況が少なくなるようご協力をお願いします。

バスの運行費用について

路線バスは、労働集約型産業（人件費の占める割合が高い産業）と言われており、運行経費の6割程度は人件費となります。

これは、人件費が高いということではなく、バスは、車両があっても乗務員がいないと走りませんので運行経費の中で、人件費の占める割合が高くなります。(大型2種免許保持者しか運転できないという特殊性もあります。)

そのほかの経費としましては、バスの車両代、燃料（ガソリン）代、車両修繕・点検料、保険料、一般管理費（事業運営上必要な事務経費）などとなっています。

国では、地域別にバス1km運行するための標準の経常費用が示しております。埼玉県は「武蔵・相模」ブロックになり平成24年度は1kmあたり約470円が標準的な経費となっています。

国際興業バス間野黒指線は飯能駅～間野黒指間の距離が約11.9kmであり、国の標準単価によります1回の運行経費は約5,600円となります。

この区間の運賃は大人430円ですので、現金利用者の大人が飯能駅から終点の間野黒指まで約13人が乗って収支がほぼ合うということになります。

